

利な起債も活用できました。町民の皆さまの後押しもあり、何とか現在のまちづくり複合施設の建設に至りました。

技術的な部分については、民間事業者が町内に木材乾燥施設をつくり、安定した品質の木材を早く供給できる体制を整備したほか、チップセンターの設立により、全国に先駆けて町内での「みどりの循環システム」のモデル的な取組ができたことも非常に大きな成果だったと感じています。

また、このような大規模な施設を建設するにあたり、参加いただいた町内の建築大工の皆さまの頑張りも全国に大きなインパクトを与えたと思っています。

また、このような大規模な施設を建設するにあたり、参加いただいた町内の建築大工の皆さまの頑張りも全国に大きなインパクトを与えたと思っています。

▼吉田商工会長

職業柄、町の林業・木材産業については元気がない時代から関わってきました。長らく、「なぜ町の木が使えないのか」と疑問を持ってきましたが、ひとつずつ



つ整理をしていく中で、利用に至るまでさまざまな課題があることがわかってきました。それらの解決に向けては、林野庁から技術支援をいただき、現在の状況に至っております。

また、驚いたことは、町の林業振興と木材利用に向けた体制整備、技術習得のスピード感でした。これは行政、民間が一体となって進んできたこと、そして川上と言われる森林・林業関係者、川中、川下と言われる製材や建築関係者などの協力が非常に大きかったと思っています。

そして、当時商工会の建工会の部会長として、旗振り役を担当しましたが、「まちづくり複合施設」建設には、地元建築大工と地元工務店などの協力と町内の技術が結集され、このような素晴らしい複合施設を建築できたことは大変うれしく思います。

■森林・木を活かしたまちづくり

▼佐藤町長

産業だけでなく、環境、防災を考えたときに、これまでも実践してきた、「伐って・使って・植えて・育てる」の『みどりの循環システム』の確立が重要だと思っています。

そして林業・木材産業に目を向ければ、地域の活性化のため

に、今ある町の資源を活かし、いかに町内で付加価値を付けるかが重要です。販売、利用については、町内だけでは消費できる量でありませんので、これまでも同様に協力、応援いただいている事業者と連携を取っていきたいと思います。

また、環境面では、二酸化炭素の吸収効果が非常に大きい町内の森林をしっかりと保全していくためにも、伐採したら植林・育林に向け、支援も行い、次の世代につないでいく必要があります。

その一つの方策として二酸化炭素の吸収量を貨幣価値に替え取引を行う「Jクレジット」などの対応についても進めて行く必要があると考えています。

▼吉田商工会長

山にはまだまだ可能性があると思っています。

しかし、地域の森林資源を活かしていくためにはまだまだ乗り越えなければいけない課題が多いことも事実です。



吉田 博之 商工会長

畔藤在住
建築設計業 山形工科大学校特任教授・おきたま木材乾燥センター(株)相談役・おきたま林業(株)監査役
山菜採りが得意。

今の町の林業・木材産業は数年前までは考えられないステージを進んでいます。これまで、まちづくりの視点では森林・林業のウエイトは小さなものでしたが、これからは、産業としてだけでなく、環境の保全や教育的な視点からも、社会的にも大きな期待がかかっています。そして、町にお願したいことは、佐藤町長や私が経験したように子どもたちが山、森林と共に触れ合う機会を多く作ってもらえたらと思っています。理屈ではなく、体で感じることで、自然体験が子どもたちの成長過程で非常に大きな経験になるものと感じます。

▼佐藤町長

私も自然と共に学ぶことは非常に重要なことだと感じています。山形県のみどりの少年団連盟の会長をしています。子どもたちと一緒に数回植林を行い、その時の子どもたちの一生懸命な顔や満面の笑みを見たときには、何とも言えない気持ちになりました。やはり、子どもの時の体験は忘れません。私も子どもの時に山菜を採りながら植林したことが昨日のことのように思い出されます。ぜひそのような体験を現代を生きる子ども達にも体で感じてほしいと思いますし、そのような機会を作ることが重要だと思っています。

もり 森林と共に

未来の森林に向けて

佐藤町長

吉田商工会長が語る

■森林・林業に 目を向けるキツカケ

▼佐藤町長

我が家の裏には山が広がっており、小さなころから生活の一部として、当たり前前に森林がある環境で育ってきました。しかし、時代も流れ、森林には、素晴らしい価値があるという認識が薄らいでいきました。見直すきっかけのひとつは、東日本大震災です。震災の当日、旧役場庁舎や中央公民館はすさまじい揺れに襲われました。耐震診断を行った結果、耐震基準を大きく満たしていない状況でした。



また、建物には多くのアスベストが使われていることもあり、利用者の安全を考えた場合、早急な対応が必要な状況でした。

そのような時、平成25・26年豪雨災害が町を襲いました。その災害では町内の多くの箇所山腹崩壊や、川にスギの原木が大量に流れてくる惨状を目の当たりにしました。

これを見たとき、先輩たちが植え、育ててくれた白鷹町の森林資源を活かしていかなければと思ったこと、そして、建築のプロである吉田商工会長からも以前より、木材の強さや美しさなどをお聞きしていたことも、木材に目を向ける大きな転換点となりました。

▼吉田商工会長

私も山間地に生まれ育ち、佐藤町長と同じで幼少期から山は遊び場であり、生活の一部でした。大人になってからも、地区所有の山林に植林や雪おこし、除間伐などを山人足として一連の森林整備作業を行ってきました。



佐藤 誠七 白鷹町長

十王在住
趣味は山菜・きのこ採り。町中の山林を歩く。

たので自然に森林・林業に関心を持つことになったと思います。もうひとつは、数年前に講演を頼まれ、その材料として森林・木材について調べたことがありました。その時、気になることがたくさんあり、興味をかきたてられたのと同時に、自分の仕事の中で、これまで植え育ててきた木を、どのように活かしていくかという気持ちが湧き出てきたことが大きなきっかけとなりました。

■林業・木材産業の 振興について

▼佐藤町長

地域の森林資源の活用について考える際、森林の活用や木材の利用について、知識を有するものがないということ、林野庁と人事交流を行いました。このことは、森林・林業を含めたまちづくりの流れの大きな転換点だったと思っています。

そして、木造で中央公民館を含む役場庁舎の建設を行えないかということで取り組んできました。大きなハードルとなった建築費の問題も、技術的な部分を含め木造にすることで、林野庁から大きな支援をいただいたほか、防災施設とすることで有